

3-11 Hoshigadai, Tajimi City, Gifu Pref., 507-0811 JAPAN
 TEL.+81-572-22-5381 / FAX.+81-572-25-1163
 URL:<http://www.ceram.rd.pref.gifu.lg.jp>
 Mail:info@ceram.rd.pref.gifu.jp

Gifu Prefectural Ceramics Research Institute

岐阜県セラミックス研究所

since 1911

TM

■美濃のアール・デコ せいせつき 精炔器展Vol.12

当所では、昭和初期の美濃地方で創製され、高度経済成長期に生産が途絶えた美濃焼の一種である「精炔器^{※1}」に関する基礎研究や技能者養成、販路開拓及び製品開発に取り組む「精せつ器研究会」（代表：曾根洋司）に対する支援を行ってきました。

このたび、精炔器の市場における知名度向上およびその魅力の発信を目的として、下記のとおり精炔器展（主催：精せつ器研究会）が開催されました。

第12回となる今回は「てのひらで感じる器」をテーマとし、各作家が成熟した技術のもと個性に富んだ「さかづき」が発表されました。また、その他にも茶碗やマグカップなど各作家の個性あふれる新作も多数展示されました。更に、化粧掛^{※2}や刷毛打ち^{※3}など、精炔器技法の実演も行われました。



※1 精炔器

きめ細かい淡黄色の素地に化粧泥を用いて手作業で加飾し、デザイン性を高めた工芸的な焼き物です。昭和初期に昭和製陶所（土岐郡駄知町（現：土岐市））で創製され、昭和40年代半ばに一度生産が途絶えてしまった美濃焼の一種です。平成10年頃からセラミックス研究所が技法の究明に取り組み、平成13年に県内生産者らの研究会により生産が再開され、平成14年には県郷土工芸品に指定されました。

※2 化粧掛

「化粧土」と呼ばれる白色の泥を筆や刷毛で塗り、素地上に加飾を行います。この化粧掛が精炔器の最大の特徴であり、これをベースに様々な技法を使用して加飾を施しますが、化粧土が乾く前に作業を行う必要があります。加飾には高度な技術が要求されます。

※3 刷毛打ち

化粧掛けを行った後に、刷毛で表面の化粧土を拭き取って模様を描きます。刷毛先がつくる羽のような連続模様が特徴の技法です。

■「ニューセラミックフェア岐阜2016」 に出展しました

平成28年10月8日(土)から11日(火)の4日間にわたり、セラミックパークMINO・展示ホール(多治見市東町4-2-5)において開催された、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会主催で、中部経済産業局、岐阜県、多治見市、土岐市、瑞浪市、日本陶磁器工業協同組合連合会、(一財)日本陶業連盟後援の「ニューセラミックフェア岐阜2016」内のブースに、当所の取り組み内容を出展しました。



ニューセラミックは、金属、プラスチックにない特性と機能によって今日研究開発、実用化が進み、日常生活の中にも深く浸透しています。

美濃焼業界は、飲食器、タイルを主力生産品としている地場産業であり、近年機械化、合理化が進む中、新しい技術の研究も新分野開拓を狙うには必要課題となっています。

その対応の一環として、当連合会ではニューセラミック開発を奨励し、その研究の発表の場として「ニューセラミックフェア岐阜2016」を開催し、会員の企業化への開発意欲の更なる増大を図るとともに、対外的に広くPRを行い、新用途への挑戦も併せ商品化への進展を図っています。

■「平成28年度中小企業技術者研修」 を開催しました

平成28年11月7日(月)、9日(水)、10日(木)の3日間にわたり、当所講堂において「平成28年度中小企業技術者研修」を開催しました。

この研修は、岐阜県において中小企業の技術力向上を支援することを目的として、県内中小企業の技術者の方々に、専門的技術開発能力、技術に関する基礎的知識及び専門的知識を習得していただくために実施している施策の一環です。



第1日目には、名古屋工業大学先進セラミクス研究センター教授の藤正督氏による「分散の基礎からセラミクスへの応用」、第2日目には、アシザワ・ファインテック株式会社の業務推進役である長井明氏による「セラミクスの粉碎・分散技術について」、第3日目には、マイクロトラック株式会社営業推進室の恩田真吾氏による「微粉碎・分散、及び造粒の結果を評価する最新計測技術」について、それぞれご講演いただきました。

岐阜県内に事業所を有する中小企業者やその従業員の方々が参加されて、人材養成の場として積極的に活用されました。